

境町歴史民俗資料館だより

河岸町の歴史

鎌倉殿の家臣

境町の御家人 幸島氏

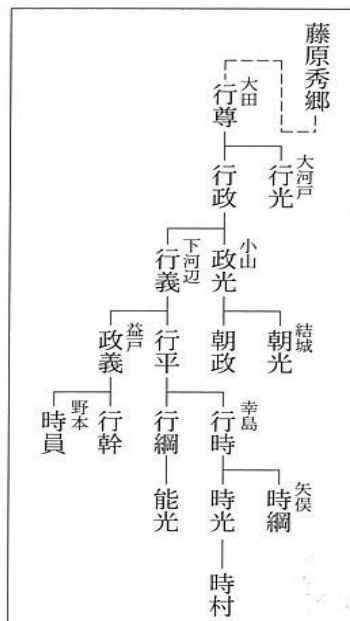


2022. 7
Vol. 15

幸島氏と境町

鎌倉時代、下総国猿島郡境町を支配していた幸島氏は、南北朝期の公家・武家系図である「尊卑文脈」によると、武蔵国埼玉郡東部の太田荘領主である太田氏から分かれた下河辺氏の分派となっています。太田氏から分かれた武家には、小山氏・大河戸氏・下河辺氏などがおりました。そのなかの下河辺氏から分かれた北下総地方は、幸島氏・野本氏・益戸氏で、幸島氏は猿島郡（境町）地域を支配していました。

幸島氏の先祖は、平安時代中頃に承平天慶の乱を起こした平将門を討伐した下野の武士藤原秀郷（俵藤原太）の末裔といわれています。平安時代の後期は、藤原秀郷の子孫の足利氏（下野国足利荘）・太田氏（武蔵国太田荘）・小山氏（下野国都賀郡寒川御厨）・結城氏（下総国結城）・下河辺氏・幸島氏などの東国武士が関東地方北部から東北地方南部を支配していました。



幸島氏系図

設に際し大きく貢献しています。

下河辺氏から分かれていた幸島氏は、利根川や荒川など関東地方を縦断する大河川に沿った境町や古河市南部(旧三和町)、坂東市(旧岩井市・猿島町)を支配し、当地域の郡や荘の名称を姓にしています。

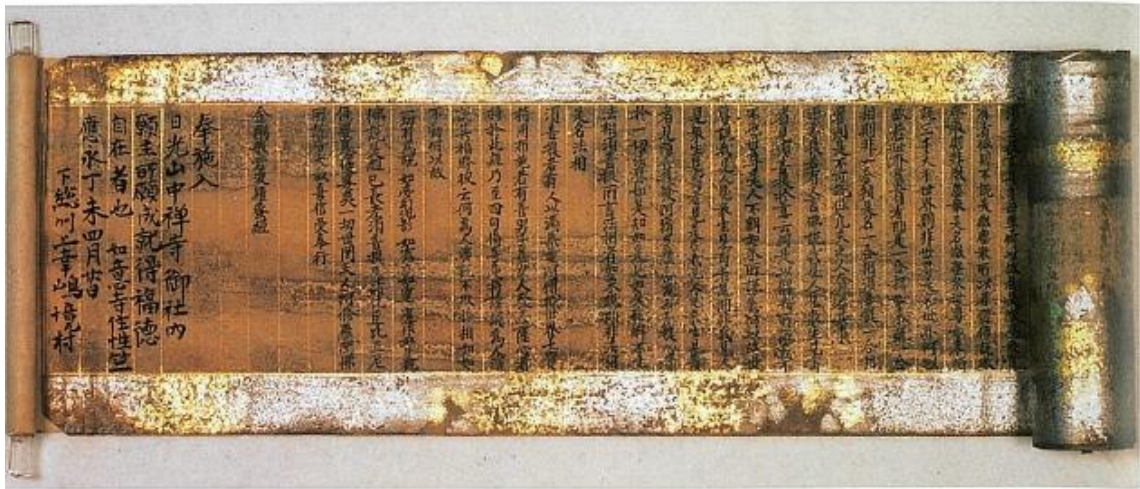
このように、鎌倉時代の境町は、広大な長井戸沼・宮戸川の西側にある横塚・塚崎(下河辺荘)を除いて、鎌倉幕府の御家人幸島氏が支配していた荘園(上幸島)になっていたのです。

鎌倉幕府の歴史が編年体で編纂され、鎌倉時代研究の基本史料として知られる「吾妻鏡」には、鎌倉幕府の草創期に活躍した下河辺行平が藤原秀郷流武芸の伝承者で、幕府將軍(鎌倉殿)の源頼朝からの信任厚く、源平合戦で多大な功績をあげていることが記されています。

また、下河辺行平は、下河辺荘司として、現在の古河市から埼玉県の三郷市に及ぶ広大な荘園を経済基盤とした鎌倉幕府の御家人で、東国武家政権である鎌倉幕府創



『下総之国図』境町周辺 (船橋市西図書館蔵)



細字金剛般若波羅密經 応永 34 年 下総州上幸嶋境村とある(日光山輪王寺蔵)

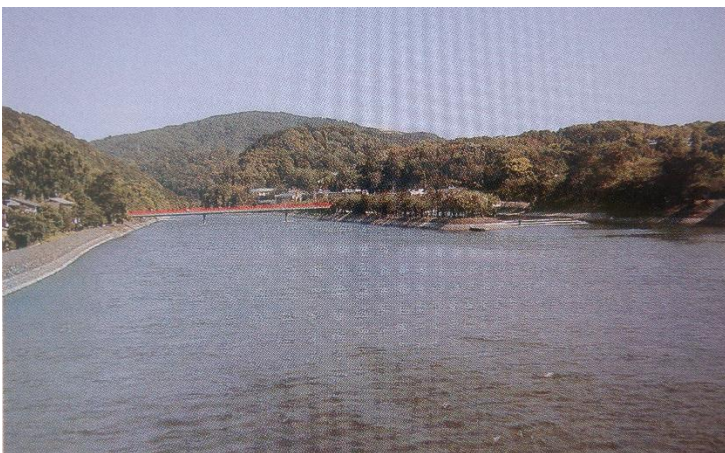
御家人幸島行時の活躍

鎌倉時代、下総国猿島郡境町を領有していた幕府の御家人は、下河辺行平の子の幸島四郎行時です。鎌倉時代の正史である「吾妻鏡」には、幸島四郎行時が、父下河辺行平が亡くなった後の建保二年(一二二四)から承久の乱(一二二二)の戦闘で討死するまでの間の鎌倉御家人としての働きや功績について記されています。

ところで、幸島四郎行時の父でもある下河辺行平は、治承四年(一一八〇)の源頼朝の拳兵(治承寿永の乱Ⅱ源平合戦)以来、文治元年(一一八五)の平家滅亡、奥州平定、守護の職務である京都の治安維持まで、終始、鎌倉御家人の先頭に立って活躍し、東国武士のなかでも、とりわけ鎌倉殿(將軍)の源頼朝から厚い信任を得ていました。「下河辺荘」の本領安堵や播磨国守護職の補任など、鎌倉殿一門としての待遇を与え

られ、猿島郡地域への進出と下河辺の子孫及び一族発展の基礎となっています。

幸島行時は、行平没後に下河辺氏の後継者となり、幕府の御家人として、建保二年(一二二四)から承久三年(一二二二)の承久の乱で討ち死にするまで、鎌倉幕府の中心的存在として活躍しています。なかでも、東国武家政権の鎌倉幕府が院と朝廷を凌いで全国支配を確立した承久の乱での奮戦は有名です。



承久の乱 最大の戦闘地(現在の宇治川)

幸島行時は、承久の乱で鎌倉幕府の大軍を率い東海道方面の総大将となった執権(得宗)北条義時の子で、のちに日本最初の武家法として名高い「御成敗式目」を制定した北条泰時とは、かねてから親密な間柄であったといわれています。

小山氏ら一門と北関東武士団を率いた幸島行時は、後鳥羽上皇方の朝廷軍を討つために京都に向かっていました。同じく朝廷軍を討つために京都に向かい近江国草津で休息をとっていた北条泰時の幕府軍と合流しました。幸島行時は承久の乱で唯一にして最大の戦闘となった宇治川渡海河作戦で北条泰時と共に戦い、激戦の中、勇猛果敢に奮戦し戦死しています。



『吾妻鏡』(独立行政法人国立公文書館蔵)

●承久の乱における北条泰時と幸島行時の再会

後鳥羽院の朝廷軍と戦うため、幕府軍を率いた東海道方面の大將北条泰時が休息をしていた近江国草津(滋賀県)の陣へ、下野国の小山氏一門と上洛途中、幸島四郎行時は日頃から入魂の間柄であった北条泰時のもとで死ぬ事を望み、ひたすら泰時の陣を目指していました。(『吾妻鏡』)

(境町歴史民俗資料館 野村正昭)

※「尊卑文脈」十四世紀に編纂されている

古代〜中世の公家・武家系図

※『吾妻鏡(東鑑)』

治承四年(一一八〇)後白河上皇の皇子以仁王を奉じた源頼政の挙兵から、文永三年(一一六六)の皇族將軍宗尊親王の京都送還までの鎌倉幕府の歴史を編年体で著した歴史書(正史)です。

お知らせ



『古い街並のスケッチ展』

昭和40年代から60年代頃に境町の古い街並を描いたスケッチを境町歴史民俗資料館に展示します。

今は見るができなくなってしまった古い街の風景をぜひご覧ください。